

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第24号

発行:2013年5月4日

発行者:浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
☎・FAX 082-428-0160・082-428-1360

宗祖親鸞聖人降誕会法座

日時 5月25日(土) 9:00~15:00頃

朝席 9:00~ 昼席 13:00~

ご講師 安国 真雄師(志和町内 西方寺住職)



第21回歎異抄輪読会

日時 5月23日(木) 19:00~20:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

どなたでも参加は自由です。現在、歎異抄第1章をご講義頂いています。

★第11回コーラス練習

5月20日(月) 9:30~11:30

会員の方のみならず、どなたでも参加は自由です。コーラスグループの名前が「さくら」に決まりました。みなさまのお越しをお待ちしております。

★天龍寺仏教壮年会 定例会

未定、関係の方にはご連絡をさせていただきます。

天龍寺仏教婦人会法座並びに演奏会へのお礼



先般4月14日(日)に、天龍寺仏教婦人会(森澤貞江会長)主催の法座並びに演奏会を行いました。約110名の方にご参詣をいただきましたこと、書面をお借りしてお礼を申し上げます。昨年に続き広島音楽高等学校に勤務しておりました時にご縁をいただいた、野々村さん・神田さんも大変忙しい中、来てくれ、素晴らしい歌声を聴かせてくれました。野々村さんが帰り際に、来年からイタリアに留学するにもかかわらず、「来年も来ます。」と言ってくれた事は、絶対に物理的に不可能なことなのに、その様に言ってくれた事は、教師をやっていてよかったなと感動と感謝をしたしだいです。

さらにこの法座・演奏会を実施するにあたり、天龍寺仏教婦人会・天龍寺仏教壮年会のみなさまには、大変ご尽力をいただきましたこと、書面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

人は何故に生きていかななくてはならないのでしょうか？ II

人はこの世に生を受けた瞬間から、これも厭世的な言い方ですが、死に向かって生きている存在とも考えられると思います。それでは何故に人は、この様に辛く・苦しく・悲しい縁に会いながら、耐えて忍んで生きていかななくてはならないのでしょうか。また、どこに向かって生きている存在なののでしょうか。

私たちは、おぎゃーという泣き声と共にこの世界（海）に投げ出され、最初は親の保護のもとで泳ぎますが、しばらくすると自分でこの海を泳がなくてはなりません。受験戦争に始まり、昨今は就職戦争に立ち向かい必死で泳ぎ、会社に入っては出世競争に明け暮れ、世界と戦いながら業績の向上に励み、家庭の問題、内外の人間関係等、様々な事に悩み・苦しみながら、一方で結婚・子供・家族・地位・名誉・財産等という丸太に必死にしがみつきの、一時の幸福にしたりしますが、時に昨今のリストラ・会社の倒産・年金支給額の減額等あげたらきりがありませんが、その様な大波・小波が押し寄せ、丸太が流され、また必死に泳がなくてはなりません。

勝った負けた・得した損した・大きい小さい・長い短いという相対（比較）の世界の中での迷いに翻弄されながら、気がつけば老・病・死が近づいており、有限（限りのある）の世界の宿命に歎き・絶望し、死を迎えるのかもしれない。

浄土真宗にご縁をいただいた私たちは、その意味でも親鸞聖人の一生・著書等から生きていく意味・方向性等を訪ねていくことが大切だと思います。

親鸞聖人は私たちのこの人生を「苦海」「難渡海」と例えていらっしゃる。そしてこの「苦海」を自分の力で泳ぐのではなく、大きな船、つまり弥陀の本願と共に生き、自らの娑婆の縁が尽きたらお浄土に還らせて仏にさせていただく身であると言われます。

以前「下山のすすめ」という本がありました。私はどうもこの「下山のすすめ」という言葉に抵抗がありました。個人的な発言で申し訳ございませんが「人生」とは「人が生まれ生きる」と書きます。つまり生を受け死ぬまでを人生と考えれば、成長し生産性を高め・社会貢献等が出来る時が人生のピークで、老いたり・病んだりすれば、その生産性・社会貢献が衰えます。その意味から考えますと、「下山」という言葉の意味も解されますが、それは老いること・病むこと・死ぬこと等はマイナスというとらえ方になると思います。

しかし、仏教の目的は、自力・他力を問わず、「仏になる」「仏にさせていただく」ことですから、生まれて、老いて、病んで、死んだ後に、お浄土に還らせていただき仏にさせていただく。ここに、浄土真宗にご縁をいただいている私たちの、人として生を受けた意味・意義・目的・方向性等があると思っております。・・・（続きは寺報25号に記載させていただきます。）

磯松天龍寺墓苑合同墓建立についてお知らせ

この4月で天龍寺の法務にあたらせていただいて3年が過ぎました。この期間「お墓を守る後継者がいない。」「子供がいても、広島に帰って来ないから、お墓を守る事が出来ない。」等の多くのご意見をお伺いしており、「天龍寺が永代に渡ってお骨を守ってくれないか。そのために合同墓の様なものを建立して欲しい」等というご意見をいただいております。さらに「建立した際には生前予約もさせて欲しい等」のご要望もいただいております。最初にご要望をいただきましたのが約3年前なので、大変時間がかかりましたが、天龍寺総代長様・総代様をはじめ天龍寺にご関係をいただいております方々のご理解を得て、この度磯松天龍寺墓苑内に「合同墓」を建立する運びとなりました。色々のご意見もあろうかと存じますが、ご理解等をいただければ幸いです。着工は5月連休が終わった頃から開始します。